

自動運転トラックによる酒類・飲料の 幹線輸送実証に参画 酒類・飲料業界の持続可能な輸送体制の構築を目指す

サッポロホールディングス株式会社のグループ企業であるサッポログループ物流株式会社（代表取締役社長：服部 祐樹）は、株式会社 T2（代表取締役社長：森本 成城、以下「T2」）が 2025 年 6 月 9 日（月）から開始する自動運転トラックを用いた酒類・飲料の幹線輸送（注 1）実証に参画します。

本実証には、アサヒロジ株式会社（代表取締役社長：児玉 徹夫）、キリングループロジスティクス株式会社（代表取締役社長：小林 信弥）、サントリーロジスティクス株式会社（代表取締役社長：高橋 範州）の 3 社も参画（以下、サッポログループ物流株式会社とあわせて「4 社」）します。4 社は、関東から関西までの高速道路の往復路で製品の容器や重量を変えてそれぞれが幹線輸送し、自動運転トラックによる輸送の有効性と具体的なオペレーションを T2 と検証します。



「2024 年問題」を背景にトラックドライバー不足が深刻化し、2030 年には輸送能力の 34.1%が不足する可能性が指摘（注 2）される中、T2 は 2027 年からレベル 4（注 3）自動運転トラックによる幹線輸送の開始を目指しています。レベル 4 自動運転トラック（無人）の場合、1 日最大 15 時間と定められているドライバーの拘束時間と無関係に運行が可能なため、ドライバー 1 人あたり 1 日 1 運行（片道）が限界（注 4）だった現状の輸送能力を、将来的には 2 倍（往復）まで高めることができると見込んでいます。

酒類・飲料業界は、他業界に比べて輸送量およびトラックの運行数が多く（注 5）、特に需要が高まる季節はドライバーの確保が困難になる事態も予想されるなど、輸送能力の低下により消費者への製品供給が遅れるリスクが高まっています。今回、こうした社会問題の解決につなげるため、T2 が開発したレベル 2（注 6）自動運転トラックを用いて製品を幹線輸送する実証に参画することになりました。本実証を通じて、2024 年問題への対応を強化することで、持続可能な輸送体制の構築を目指します。

■実証概要

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 1. 日程 | 2025 年 6 月～11 月の期間中、計 16 回（8 往復）を予定 |
| 2. 場所 | 関東・関西間の高速道路上の一部区間にて実施 |

3. 6月の実証ルートおよび日程

- 往路：麒麟ビール横浜工場→麒麟ビール神戸工場
復路：アサヒビール吹田工場→アサヒビール茨城工場
- 往路：サッポロビール千葉工場→サッポロビール大阪物流センター
復路：サントリープロダクツ宇治川工場→サントリー海老名配送センター



4. 6月の積載物の一例 アサヒ「アサヒスーパードライ」、麒麟「麒麟一番搾り生ビール」、サッポロ「サッポロ生ビール黒ラベル」、サントリー「サントリークラフトボス ラテ」



- 役割
 - T2：全体マネジメントおよび実験用車両の提供
 - 4社：実証貨物の提供および積載
- 検証内容(注7)
 - 貨物を積載した幹線輸送における自動運転の走行ルート、走行リードタイムおよび物流品質検証
 - 想定したオペレーションパターンの有効性検証

(注1) 工場で生産された商品を全国の配送拠点に主要な輸送ネットワークを通じて効率的に運ぶこと

(注2) 経済産業省開催「第3回持続可能な物流の実現に向けた検討会」における「物流の2024年問題」の影響について(株式会社NX 総合研究所)

(https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/sustainable_logistics/pdf/003_01_00.pdf)

(注3) 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態

(<https://www.mlit.go.jp/common/001226541.pdf>)

(注4) 東京ー大阪間の高速道路の運行に6時間がかかると想定した場合

(注5) 経済産業省・国土交通省・農林水産省調べ「我が国の物流を取り巻く現状と取組状況」

(https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/sustainable_logistics/pdf/001_02_00.pdf)

(注6) ドライバーの監視のもとに行われる特定条件下での高機能自動運転

(注7) すべての実証はドライバーが乗車し、レベル2相当で実施